



下村健一の「手づくり動画」ウオッチ

元TBS局アナ兼取材記者。報道番組などに出演するかたわら、一般市民の映像制作を支えるアドバイザー歴14年。現在、慶応大学特別招聘教授（マスコミュニケーション）

オ ウム真理教が引き起こした松本サリン

事件の発生から、今日で丸20年。この事件を巡る手作り動画、地元の高校生たちの労作「テレビは何を伝えたか」＝写真＝が忘れられない。

あのおとき、警察の捜査に引きずられて、大手メディア各社は、第一通報者の会社員、河野義行さんが犯人であるかのように匂わず報道を展開した。

なぜ、この過ちは起きたのか。疑問に思った高校生たちは、事件から3年後、カメラを抱え地元のテレビ各局を訪ね歩いた。

「その答えによっては、自分自身の首をしめすからね」▽「情報を精査する余裕がありませんでした」▽「自分では(情報を)つかんでいないけど、会社が……」▽「警察との癒着と言われてしまえば、返す言葉が無い」▽「テレビって流れて、残るものじゃないですよね」▽「非常に大きな傷を負いました、報道機関として」▽「これは……出口がないような気がするんです」

プロの同業者の取材だったら身構えるであろう、若手の現場記者や各局の報道幹部たちが、高校生の素朴な質問に心を開き、率直に本音を答えるさまには、目を見張られる。1997年の「東京ビデオフェスティバ

松本サリンから20年

ル」で、日本ビクター大賞を受賞するなど、高い評価を得たのも納得だ。

それにしても、あれから20年たった今見ても、少しも内容が古くなっていないというのは、どう受け止めるべきことだろう。既存テレビ局は、まだ同じような所に立ち止まっているのか。制作し



た高校生たちは30代となり、手づくり動画発信の世界は日々、進化しているというのに。

☆「テレビは何を伝えたか」全20分／長野県立松本美須々ヶ丘高校放送部 作

【視聴するには】「テレビは何を伝えたか」「松本サリン」でネット検索

(テレビ信州のサイトに収納されていますが、制作に同局は関与していません)

※太郎次郎社エディタスから同名でDVDも発売